

教科	・児童の課題 ○重点目標	具体的な授業改善策
国語	- 漢字の読み書きについては、力を伸ばしている児童が多いが、普段の作文等で、漢字を活用する能力が不十分である。 - 文章を正確に読み、その要旨を捉えたり、自分の考えを筋道立て、分かりやすく文章で表したりする力が十分ではない。 ○読む、書くことの基礎的基本的な技能を伸ばし、文章の内容を正確に捉えたり、自分の意見分かりやすく述べたりすることができるようにする。	- 授業の冒頭に漢字学習や音読の時間を設け、国語の基礎技能の向上を促す。 - 家庭学習「けてぶれ」において、ただ漢字を覚えるだけでなく、その使い方や成り立ち等を調べるなど、漢字に対する理解がより深まるような練習方法を示す。また、作文をする際にはできるだけ漢字を使うように声かけし、児童同士でチェックする時間を設ける。 - 音読指導を充実させ、文章を正確に読む習慣を付ける。 - 文章の読み方、書き方を丁寧に指導し、児童が見通しをもって国語の学習に取り組めるようにする。また、自分たちで活動する時間を充実させ、要旨を探したり、自分の考えを文でまとめたりする活動をたくさん行う。
算数	- 文章題の意図をつかみ、立式することに苦手意識をもっている児童が多い。 - データの読み取りや書き取りの際に、正確性に欠けてしまう児童がみられる。 ○正確に問題を読み取り、正しく立式を行えるようになる。	文章問題では、要点に下線を入れたり、印をつけたりする作業を繰り返し行うことで、文章からの要点の読み取りの仕方を定着させていく。
理科	- 興味関心は高いが、学習内容の理解が難しい児童が多くいる。 - 自ら問題を見出し、追究していこうとする意欲が低い児童がいる。 ○日常生活の中から学習課題に結び付け、基礎的基本的な知識・技能を定着させる。	- ドリルパークを活用し、学習の振り返りや単元のまとめを行い、学習内容の定着を確認する。 - 児童が自ら問題意識をもてるよう、単元の導入を工夫し、興味関心を高める。 - 自由進度学習を取り入れ、興味関心に合わせて自分で計画から実験、結果、まとめ・考察までの活動をする時間を充実させる。
社会	- 重要語句の意味理解や、基礎的な知識の習得が不十分である。 - 資料の中から必要な情報を取り出し、項目ごとに分けてまとめることが苦手な児童が多い。 ○基礎的な知識・技能を定着させ、様々な資料を効果的に活用しながら、様々な課題を自ら解決する力を育てる。	- 重要語句の意味については、授業の中で、児童がどれくらい理解しているのかをよく確認しながら、適宜説明の時間を設ける。その際、動画資料などを効果的に活用する。 - 歴史や政治、国際社会について、自分で調べ、まとめる時間を充実させる。その際にはICT機器の活用や、友達との共同をどんどん促すなど、児童が自らの方法で課題解決に向かっていけるように工夫する。

音楽	・コロナ禍で思うように学習ができなかった3年間の影響が大きく、特にリコーダーに関しては基礎的な奏法が定着していない児童が多い。 ○リコーダーに関する基礎的な知識や技能を定着させ、演奏できるようにする。	・階名唱を繰り返し、旋律を覚えることで、リコーダーを吹く際には演奏に集中できるようにする。 ・リコーダーの指と音名が一致していないため、曲を演奏する前に、必ず演奏する上で必要になる音の運指を一音一音確認する。 ・児童同士で助け合える環境や雰囲気を作ったり、運指が分かりやすいように手元が映った動画を配布したりする。
図工	・感性や想像力を働かせることにつまずきが見られ、自分のイメージを表現することに苦手意識が見られる。 ・表現の意図や思いを想像する力に差があり、造形的な活動に取り組むことに躊躇する場面が見られる。 ○創造的に作ったり、表したりすることを楽しみ、イメージしたことを具体的に表現することのできる力を身に付ける。	・ICTを活用して、様々な技法や作品例をいつでも見られるようにし、安心して活動に参加できるようにする。 ・クロームブックに活動の記録を残し、成果や課題を見やすくする。また、友達の活動記録も見られるようにし、多様な表現方法に触れる中で、お互いのよさを認め合う。 ・作品鑑賞の時間を設定し、様々な表現方法に触れることで自分の見方や感じ方を広げる。
体育	・授業の中で楽しみながら運動を行っているが、自己の運動について振り返り、どのように改善していくかを考える力が不十分である。 ○自己（チーム）の課題を明確にし、自分で考えたり友達と話し合ったりしながら改善方法を考え、自分たちで自己（チーム全体）の運動技能を高められるようにする。	・振り返りカードの記入時間を十分に設け、児童が自分の課題に向き合えるようにする。また、友達と積極的にコミュニケーションをとったり、ICT機器を使ったりすることを促し、課題解決のためにどのようなことをしていけばよいのかを児童が自ら見つけていけるように工夫する。
家庭	・5年生で学習し身に付けたことを基に、6年生の学習を進めているが裁縫技術は特に定着していない子も多く、振り返りながら学習を進めている。 ・実習系の学習はどの児童も意欲的で協力したり、苦手な児童へ声をかけたりしながら活動している。 ○学習している知識や技能を、生活経験と結び付け、社会や家族の一員であるという自覚をもち、よりよく生きていこうとする心情を育むことを大切にしていく。	・習得した知識や技能を家庭生活で生かし、家庭学習として活用する機会を設けていく。 ・意欲をもって取り組めるような場の設定をし、ICT機器を活用して1つ1つを確認しながら活動していく。 ・基礎的、基本的な技能が身に付けられるよう資料や映像を工夫する。

※ なお、各教科において、端末は対話的な学びや記録の蓄積等に常時生かすようにする。